



### 余情残心



会長 春原和民(六十四期)

今年も残すところ少  
なく残り、思わず一  
年の反省をしていま  
す。

昨年、『OB会の繁栄と現役生の活躍は、車の両輪』というスローガンを掲げましたが、果たして進捗度はいかにと自分に問いつつ、思いつくまま記します。

一、現役生の更なる活躍を願う

剣道人口が減少するなかで、母校剣道班もその余波を受けていますが、少数精鋭で健闘しています。先の新人戦でも若林先生の指導よろしく、善戦した戦績を残しており、なかでも一年生の活躍が目立っていて、今後に期待をしたいと思えます。

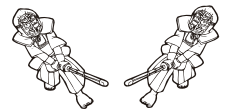
学業との両立という難しい課題ではありますが、『百難に試みん』の精神で立ち向かってほしいものです。

こうした現役生をバックアップするためにも、OB会諸氏の一層の支援協力をお願い致します。

二、戦後剣道班・OB会史の作成と年会費納入のお願い

事ある毎に述べておりますが、戦後

題字:細川武敏(41期)筆  
OB会報誌第24号  
平成28年12月1日発行  
制作:会報編集委員  
(株)上田ワードプロセス企画  
TEL. 0268-23-1122 (代)



の剣道班及びOB会の足跡をまとめたOB会史を刊行したいと考えています。既に原稿は、羽田名誉会長が克明な記録を電子媒体で保存してくださっています。これを骨子として、会員の投稿や、写真を挿入して纏めあげたいと思えます。

何分にも現況の財源では不足しておりますので、会員の皆様の更なる年会費及びご寄付をお願いします。

三、井出賢次先輩(四十六期)ご逝去  
上田中学時代のOBであります井出賢次先生が、去る十月二十七日に逝去されました。先生は戦前の剣道部で、伊藤長三先生の薫陶を受けた後に東京高等師範(現筑波大)を卒業され、高校の国語科の教師として尽力されました。丸子実高、松本深志高の校長を歴任されたほか、長年に亘る教育界での功績が認められて勲四等瑞宝章を受けられました。特に母校の教諭時代は、宮坂信之君(六十四期・現東京医科大学大名誉教授)の担任として、また、野球班の監督など幅広く活躍されました。毎年六月のOB会の総会にはお元気な姿を見せ、後輩とともに酒を酌み交わしながら語り合われた大先輩がまた一人亡くなり、寂しい限りです。

井出先輩のご冥福をお祈りいたします。合掌

### 活動報告



幹事長 山崎完爾(七十七期)

事務局より平成  
二十八年度のOB  
会活動につきご報  
告いたします。

毎年桜の咲く四月、

OB会の活動を開始しなければ、ということで役員会を開催し、二十八年度の活動方針を決定いたしました。春原会長となって二年目の年ということでも、定例総会の持ち方についても大きな変革を試みることにしました。これまで会員全員に郵送していた総会通知については、過去の出席状況等を勘案し、発送数を絞り込んだものとし、メールアドレスのご報告を頂いた方にはメールで直接通知をさせて頂いていただきました。また、OB会のホームページ、メルマガジンなどでも開催をお知らせし、開催をPRいたしました。こうしたことから、事前に出席人数を把握できない状況での総会の開催となり、事務局としてはかなり不安のある中で開催の準備を行うこととなりました。

宮下杯争奪戦・稽古会及び総会・懇親会につきましても、各担当がそれぞれ準備を進め六月二十五日(土)に開催されました。午後二時半の開会に引き続き行われたのは日本剣道形の演武です。剣道班顧問若林康彦先生(教士七段)と佐藤 博氏(七十六期 五段)のお二人に、OB会員と現役生の見つめる凜とした空気の中、見事な剣道形を披露していただきました。こうした機会はなかなか得られないことから、現役生もお二人の演武に引き込ま

れていました。その後例年どおり宮下杯争奪戦・稽古会が上田高校体育館において行われました。宮下杯争奪戦ではOB会



班顧問 若林康彦氏、76期佐藤 博氏

員に審判団としてご協力をいただき、審判長は金澤信男氏(六十七期)をお願いいたしました。事前に参加者の把握をしていない中での開催のため、十分な審判員の人数を確保することができず、若林顧問にもお願いをした中で試合を進めることができましたが、審判員の確保が来年度の課題となりました。今年度も、班員の減少から一試合場での実施となりましたが、全員で男女全試合を観戦し、争奪戦後の講評では、OB諸氏より現役生に対するアドバイスをいただいております。

引き続き行われた稽古会では、OB会員と現役生との熱の入った稽古が行われました。現役生にとつては、大勢の高校者との稽古で貴重な経験となる機会です。積極的にOB会員との稽古に臨んだことで、大きな刺激を受けているように感じました。

その後、会場を上田温泉祥園に移してOB会総会及び懇親会が行われました。二十五名の方にご参加をいただき、事前に出席人数の把握をしていない中でしたが、まずまずの出席者数となりました。

春原和民会長(六十四期)のご挨拶

に続き、若林健氏(六十五期)を議長に選出し二十七年事業報告・決算報告を行いました。今年度は、OB会から現役生に対する補助金の交付をこの席で行うこととし、春原会長から若林康彦顧問に目録の贈呈が行われました。その後、若林先生からご挨拶と二十七年の戦績についてご報告をいただいております。なお、二十八年度より副顧問としてOBの小林まゆ子先生(百五期)が就任されており、顧問のお二人が現役というところで、指導に益々力が入っていくことが期待されております。

このように総会に係る改革が進められた中での実施となり、役員も不安があったわけですが、無事に終了させることができましたことは、OB各位のお力添えがあったものと感謝申し上げます。来年度以降についても多少の見直しを図りながら、役員それぞれが力を出してまいりますので、皆様も気軽に総会等への出席をお願いいたします。

OB会のもう一つの事業の柱である「剣風」の発行につきましては、例年九月頃から担当役員を中心に、企画原稿依頼・準備、編集を行ってまいります。二十七年の「剣風」の発送については、過去のOB会費納入者、高校卒業後四年間まで等、一定の条件を付した上でお送りさせて頂いていただきました。OB会員の皆様への重要な情報発信の一つとして重要なものですが、会費の納入が思うように伸びないことから、経費面を考慮した上での決定となりましたので、会員の皆様のご理解と、会費納入へのご協力をお願いいたします。

次に、上田高校運動部OB会連合会事業への参加についてご報告いたします。一月三十日の幹事会に引き続き二月二十七日に総会が祥園にて行われ、当会からも四人が参加をいたしました。総会においては事業・決算報告、事業予定・予算案等が審議されました。総会に先立って行われた講演会では、SBCのテレビ・ラジオで活躍中の中澤佳子アナウンサーから興味深いお話を伺うことができました。また、OB会連合会では、北信越大会以上の大会への出場班、出場者に対し激励金を送る事業をしておりますが、二十七年度は北信越大会へ剣道班が男子個人での出場を果たしていることから、現役生に計一百万円の支払いがありましたことをご報告いたします。

また、OB会連合会では春と秋の二回ゴルフコンペを開催しております。当会からも有志の方々に参加をいただいております。メール、ホームページ等で開催のご連絡をさせていただきまして、大勢の皆様のご参加をお願いいたします。

OB会連合会の幹事は毎年持ち回りとなっており、二十八年度については卓球班が当番幹事となっております。

最後に、様々な改革を行ってきた二十八年度ですが、OB会の活動にご理解と引き続きのご協力を賜りますよ



講演 64期宮坂昌之氏

ようお願い申し上げ、活動報告とさせていただきます。

### 随筆・和親記より 木曾義仲と参上神社

信州大学 大学院総合工学系研究科 教授 太田和親(百一期太田朝裕・父) 2004年7月5日随筆

近頃、私は土日に暇があれば、上田市内の神社仏閣の由来を尋ねて回っています。また、家にいるときは平家物語などの古典を読んで楽しんでいきます。最近、平家物語に近所の丸子町や上田市など東北信に関係することが出ていて大いに注目しています。以下注目しているところの要約です。

平家物語 巻第四「宮御最期」の段より  
治承四年(1134)、後白河法皇の皇子の高倉宮(以仁王)が平清盛討伐のためクーデターを起こした。平家討伐の宣旨は全国に伝えられた。しかし、宮は京より奈良に向う途中平氏に追いつかれ討死した。

平家物語 巻第六「横田河原合戦」の段より  
寿永元年(1183)九月、木曾義仲は依田城(小県郡丸子町)を出て、横田河原(長野市篠ノ井横田)で僅か三千の兵でもって、平家方の城四郎長茂越後国支配)率いる四万の兵を破った。この時、義仲軍は、わざと平家の印の赤旗をあらちちらに掲げ、平家軍を油断させ自陣深くおびき寄せて、これを討った。

平家物語 巻第九「木曾の最期」の段より  
木曾義仲は、栗津(滋賀県)で追いつめられ、残り五騎となったとき女武者巴御前を逃がし、最後には乳兄弟の今井四郎兼平の二騎となって壮絶な死を遂げる。兼平は義仲に松の木の下で自刃を勧め防戦した。義仲は泥田の深みで動けなくなり自刃できず討ち死にした。それを見た兼平は、これが忠義の侍の死に様とあって、口に剣をくわえて馬から飛び降り自害した。巴は兼平の妹で、義仲の恋人、兼平は、義仲と竹馬の友で乳兄弟であった。

以上が私が感動し注目しているところ。義仲は平家討伐の宣旨を、現在の上田市の隣の丸子町の、依田城で聞き蜂起する決心をしたようです。「横田河原合戦」については、後年、真田氏が僅か二千五百の兵で三万八千の徳川秀忠の軍を、ここ上田の地で破ったのに酷似しています。これは今も上田市民の誇りですが、それより約四百年前にも全く同じことがこの東北信の地方であったんですね。東北信(上田・佐久地方と長野市辺り)は日本の国が乱れると必ずここで大きな戦いが古代から行われることを知りました。平将門の乱(上田の国分寺と科野大宮が戦火で焼失)、横田河原合戦(源平の戦い)、上田原合戦(武田信玄と村上義清)、川中島の戦い(武田信玄と上杉謙信)、上田城の戦い(真田氏と徳川氏)。東北信は、二百年あるいは四百年ごとに戦場になっています。地政学的に東日本から京都へ上る道筋に古代からあり、それが東西の衝突の場所となつていくようです。関ヶ原に似ています。関ヶ原も有名な関ヶ原の戦いよりもずっと以前にも、天下を二分する戦いが行われています。壬申の乱です。これも東西対立の地政学的な衝突場所となりやすいためでしょう。また、「横田河原合戦」で初めて知ったことがあります。源平の合戦では、平氏は赤旗を旗印にし、源氏は白旗を旗印にして戦っています。これが今も、紅白歌合戦や、剣道や柔道(※)の審判が使う赤旗と白旗の起源だそうです。小学校の運動会で、小学生が紅白帽子をかぶり「赤勝て、白勝て」と応援しますが、これは源平の合戦だったので、私は「平家物語」を読むまで、全く知らなかったです。

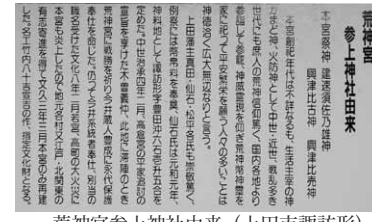
※作者追加(原文にはありません)  
【注\*柔道では最近ルールが変わり赤旗(青旗)と白旗を使った判定はなくなっています。】  
さて話は少し変わります。最近市内を散歩中に見つけたのですが、木曾義仲が上田市内の参上神社(別名・荒神宮)で、戦勝祈願をしていることを初めて知りました。以下は神社前に書かれていた縁起の要約です。



荒神宮参上神社(上田市諏訪形)

上田市諏訪形の「参上神社由来」より  
治承四年木曾義仲は、以仁王の平家討伐の宣旨に呼応して拳兵を決意し、上田の参上神社に戦勝祈願をした。そして今井藏人豊成にこの神社に永代奉仕するように命じた。

驚くべきことに、824年もたった現在も、宮司さんは今井氏のようです。義仲の命令をこんなに長く守っているのは、ギネスブックもあるいは世界遺産ものだと私は思います。でも上田市民にさえほとんど知られていないのが残念です。ところで、この宮司さんの今井氏に聞いてみたいことがあります。御先祖の今井藏人豊成は、平家物語で全国的に有名な今井四郎兼平と巴御前とどういう関係だったのでしょうか、兄弟のように思いますが、もしそうだったら、歴史に埋もれていますが、ものすごいことですね。今も今井四郎兼平の親戚が上田に住んでおられるのですね。感動的です。私は平家物語の、兼平が口に剣をくわえて馬から飛び降り自害した壮絶な場面では、感動して思わず涙が出ました。一人当千の女武者巴御前を義仲が逃がす場面もあまりに感動的です。巴御前は近江の粟津を



荒神宮参上神社由来(上田市諏訪形)

逃げて、ここ信濃の参上神社に身を寄せたのでしょうか。

さて、平家物語は京の都の貴族出身の人が書いたそうなので、源氏の木曾義仲を田舎者扱いして侮蔑的に書いているのが少し許せない気がします。義仲は一時、頼朝、平家の三者で日本国を三分する程のつわものでしたから、大変な武将であったことは事実でしょう。義仲は、横田河原合戦から破竹の勢いで京まで攻め上ります。従って、

上田市の参上神社に戦勝祈願をし、丸子町の依田城を出て、長野市篠ノ井の横田河原に向う時が、源平合戦の長い戦の始まりと言っていていいでしょう。上田市の参上神社や丸子町の依田城は歴史的に重要な場所と思われまます。依田城は平家物語に出ているのでよく知られていますが、参上神社は全く知られていないのが、私には残念です。もし義仲が頼朝に勝ってここ上田に最初の幕府を開いていたら、この参上神社は幕府直轄の神社となり、鎌倉における鶴岡八幡宮と同じように大神社になっていたのではないのでしょうか。小さな参上神社の前で私は一人たまたみ空想を巡らしました。

※編集者注：原文を改変せずそのまま掲載しました。太田和親著・和親記：木曾義仲と参上神社



<http://www13.uedane.jp/~kos5517/s08.htm>

### 『OB対談・海外編』

今回は、日・サウジアラビア外交関係樹立六十周年記念事業で、全日本剣道連盟のメンバーの一人として派遣された近藤敏朗さん（八十二期）のお話をお聞きました。



【司会】日・サウジアラビア外交関係樹立六十周年記念事業は、どのようなものですか。

【近藤】日本とサウジアラビア王国の間には戦前、正式な外交はなく、戦後の1951年6月7日に、始めて外交関係樹立に合意しました。今年はもちろん六十周年にあたり、それに基いて行なわれた記念事業です。

【司会】日・サウジアラビア外交関係樹立六十周年記念事業には、どのような方々が関わったのですか。

【近藤】日本武道館主催の派遣武道代表団は、柔道、剣道、弓道、空手、合気道、少林寺など二百三名が参加しました。そのうち、剣道関係者は、全日本剣道連盟から六名が参加しました。メンバーは、佐藤征夫（七段）、山根

博幸（教士八段）、小郷洋之（教士八段）、音川勝（教士八段）、川端和光（七段）、そして私（教士七段）です。

【司会】選抜メンバーの条件などあるのですか。年齢層はどうですか。

【近藤】全日本剣道連盟に所属しているメンバーです。五十代から六十代の方々が中心で、私が最年少で四十代の参加となりました。

【司会】どのような日程でいかれたのですか。

【近藤】八日間の日程で行きました。出発前夜に、結団式、壮行会を行い、この時がメンバー全員での初顔合わせだったので、現地での演武体験教室の方針を決めました。サウジアラビアは直行便がなく、香港を経由し十五時間をかけての移動となりました。

【司会】現地での活動はどうでしたか。

【近藤】一日目はキング・ファハド・セキユリティ・カレッジで演武を行なっていました。言葉による説明の時間はなかったため、短い演武時間の中で、現地の人々に剣道の良さを伝えられるように、前半は日本剣道形の一部を披露し、後半は、防具を付け、基本技、



82期近藤敏郎氏

各種応じ技、切り返しを中心に演武しました。日本の防衛大にあたる大学で、警察官や自衛官等の職務に就く学生が対象だったせいか、静かに、熱心に見学していました。

二日目は私立

小学校で演武会を行ないました。ここは全員が男子生徒で、全校数が五千人と多いため選抜された六百名が見学しました。



最初は、日本剣道形、基本技などの演武を行い、次にワークショップを行ないました。ワークショップは実際に生徒に竹刀を持たせて、演武者の面を打たせました。これは、生徒たちは大層気に入ったようで、楽しそうに参加していました。剣道という競技も珍しいし、防具や竹刀も珍しいものと感じたのではないかと思います。

三日目はオリンピック・コンプレックスで、武道演武会を行ないました。四千人数が見学にきていました。ここは、今までの中で一番剣道に適した板の上で演武を行なうことができ、演じやすかったです。一般の方々を対象とした体験教室も行ないました。家族連れが多く、子供や女性も参加して、賑やかでした。ここでも、演武者が防具を付け、参加者に竹刀で打たせる体験をしてもらいました。防具を付けた私達を竹刀で打つことに始めは戸惑いながら参加していた人々も、慣れてくるにつれ、気軽に打てるようになっていきました。

【司会】滞在期間中の思い出で印象に残ったことなどがありましたら、お聞かせください。

【近藤】サウジアラビアはイスラム教徒の国なので、一日に何回かアラアの神にお祈りをします。スーパーを訪れ買い物をしていく時、お祈りの時間になった途端、店員さん全員が、店を閉めてお祈りにいつてしま、帰ってくる三十分間、待つはめになりました。日本ではありえない体験でびっくりしました。また、講習中の時も、お祈りの時間になると、サウジアラビアの人々は全員が手を止めて床に跪き、お祈りを捧げていましたので、演武者も中断して待つようになりました。

一日何回もお祈りをしますが、最初の一回目は五時位からやるそうです。どんな状況でも中断し、お祈りを捧げる事にこだわりを持っていたので「朝早い時間に子供は起きれないのに、無理やり起こして参加させるのですか」と聞いたところ、「アラアの神は寛大だからそれはいいのだ」という答えが返ってきました。国によって文化が違





うのだと実感しました。交通ルールを守らないのも印象的でした。普通の道路で百キロ近いスピードを出したり、三車線道路で、追い抜きなどかまわず繰り返し、道幅いっぱい広がって、十車線道路になっていたりしました。道路もきちんと舗装されていなくて、横からネジが出ていたり、途中で道路が急になくなっていたりしました。歩道は危なくて通行できませんでした。

サウジアラビアは一夫多妻制で、四人まで妻がもてるそうです。女性は、アバヤと呼ばれる黒い伝統的衣装を外出時には必ず身に着けるようになってるので、女性は目しか見ることができませんでした。

不倫は、極刑の死刑で、日本のように道端で男女が話しているだけでも疑いがかけてしまうそうです。麻薬も死刑で、公開処刑場があります。窃盗は手首切断になるそうです。量刑を比較しても国の違いが顕著に出ていると思



います。砂漠を観光しましたら、日本のように白い砂ではなく、赤い砂でした。持っているだけで三回願いが叶うというお話でしたので、持って帰ってきました。いつ使うか楽しみです。

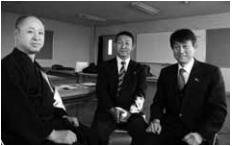
【司会】今回の体験からどのようなことを感じられましたか。

【近藤】サウジアラビアという文化、価値感の大きく異なる所に実際に行ってみて、日々生じる人間関係なども立場考え方が違うと自分と全く違う反対のストーリーが出来上がるのだという事が少し理解できるようになりました。自分の価値感で判断し、こちらが正論だと思っても、相手は相手なりの価値感で正論だとフツウに考えていて、その結果、相容れることがない。そんな事があってもフツウなんだと、思いました。

【司会】後輩の生徒たちに一言お願いします。

【近藤】お元気でいらつしやいますか。現在の私があるのも、今回のような貴重な経験ができますのも本当に皆様のおかげであります。そういうこともよくやくわかって参りました。本当に感謝しております。また今後とも宜しくお願いします。

【回答者】近藤敏朗  
 (八十二期)  
 【司会記録】正村聖  
 美(八十期) 佐藤博  
 (七十六期) 金森健志  
 (八十七期)



### 防衛省トップが来田!



76期宮川正氏(現・防衛省情報本部長)

去る十月八日(土) 上田東急REI

ホテルにて行われた、平成二十八年度上田高校同窓会・会員大会に、記念講演の講師として我が剣道班OBである宮川正氏(三年時班長)が来田した。

「わが国を取り巻く安全保障環境と自衛隊の活動」と題して約一時間講演。その後懇親会で久しぶりの旧友と歓談した。宮川氏は日大法学部を卒業後、一念発起しF15イーグルのパイロットを目指した。その後の略歴は次の通り。

1999年(平成11年) 6月…1等空佐在アメリカ防衛駐在官

2007年(平成19年) 7月3日…空将補に昇任、航空幕僚監部防衛部勤務(次期戦闘機企画室長)

2008年(平成21年) 8月1日…第83航空隊司令/那覇基地司令

※翌年、上田高校剣道班は「美ら島沖縄総体2010」インターハイに出場。基地指令の大先輩がいる沖縄で後輩が戦った。

2013年(平成25年) 8月22日…空将に昇任(防大26期1選抜) 西部航空方面隊司令官

2014年(平成26年) 8月5日…第8代情報本部長

※ Wikipediaより転記。出典 <https://ja.wikipedia.org/wiki/宮川正>

現在防衛省空将として日本の安全保障の最前線で活躍中。



後列左 74期 関戸、76 池田、74 山田、76 宮坂、76 土屋、76 佐藤  
前列左 76期 一之瀬、74 名倉、76 旧姓金井、76 宮川、76 旧姓山本、76 仁木

### 上田品質・上田プライド

(百一十一期主将 矢ヶ崎日路)

現在時刻、11月19日22時14分。来る

明日は私の学生剣道の集大成となる第81回早慶対抗剣道試合が、慶應日吉の地で行われる。昨年本大会に初出場した私であるが、今年は八将としての出場だ。先ほど全体でのミーティングを済ませ、選手は皆明日に向けてそれぞれ

の時間を過ごしている。剣風の原稿など書いていない場合ではない(笑)

現在、私は早稲田大学剣道部に所属

しているが、自身の座右の銘を「上田品質・上田プライド」としている。この言葉は、池井戸潤原作ドラマ「下町ロケット」の作中で、主人公が経営する小さな町工場「佃製作所」が「規模では負けても技術力ではどんな大企業にも負けない」という信念の元に掲げている「佃品質・佃プライド」から引用している。私は生まれも育ちも上田市である。幼い頃から始めた剣道であるが、私は現在の多くの同期や後輩達のような「有名道場から強豪校へ」といった、所謂剣道エリートとしての道を歩んできてはいない。しかし、私はそんな周りの強豪校に食いつかるべく、「自分たちには何が出来るか」「インターハイで戦うために何が必要か」を仲間と共に考え、考え抜いて稽古に励み続けた上田高校剣道班での日々と、その仲間たちを心から誇りに思っている。これがあつたからこそ、私は大学の厳しい環境でも前向きに剣道へ取り組むことができた。稽古に対する工夫、貪欲な試合への取り組み、チーム作りに関しての経験は誰にも負けない。「誰が相手だろうがやっつやる!」これが私の掲げる「上田品質・上田プライド」である。

明日の早慶戦も厳しい勝負になるだろう。私は早大四年生としての意地と、上田の誇りを持って戦う。いや、明日の試合に限ったことではない。この先の人生、超えられない山も死ぬほどあるかもしれない。困難に直面した時はいつも剣道班での日々を思い出す。「上田品質・上田プライド」…これが私の

平成28年 4月29日 金曜日 信濃毎日 楽軒

上田創造館開館30周年を迎え、4月で開館30周年を迎え、施設を運営する「地域科学館」は、同館が地域で果たすべき役割を明確にした「創造館管理運営ビジョン」をまとめた。「地域の充実」をテーマに掲げ、その中でも「交流・研修施設の充実」を重点として、地域住民が気軽に訪れ、学び、地域住民が交流する場として、科学的な取り組みを推進する。また、同館が地域で果たすべき役割を明確にした「創造館管理運営ビジョン」をまとめた。「地域の充実」をテーマに掲げ、その中でも「交流・研修施設の充実」を重点として、地域住民が気軽に訪れ、学び、地域住民が交流する場として、科学的な取り組みを推進する。

山浦雄一さん (JAXA提供)

名譽館長に JAXA 理事の山浦さん

「地域の科学館」施設充実

山浦雄一さん (JAXA提供)

名譽館長に JAXA 理事の山浦さん

「地域の科学館」施設充実

### 宇宙分野でも活躍するOB

(七十一期 菅宮)

旧間に属しますが「信濃毎日新聞」四月二十九日号に剣道班OBの、68期山浦雄一さんの記事が載っていました。 ※信濃毎日新聞記事より転載



原動力であり、原点なのだ。

# 剣道今昔

## 平成 28 年度戦績

■ 平成 28 年度春季東信大会結果 (5 月 14・15 日)

於・自然運動公園体育館

女子個人戦 石田小桃 (7 位)

男子団体 (2 位)

女子団体 (4 位)

■ 平成 28 年度長野県高等学校総合体育大会結果

(6 月 4・5 日) 於・小諸市武道館

女子個人戦

石田小桃 1 回戦敗退 中原有紀子 (塩尻志学館)

男子団体

決勝トーナメント 1 回戦 対屋代 2 : 1 敗退

女子団体

リーグ戦 2 位

決勝トーナメント 1 回戦 対長野商業 3 : 0 敗退

■ 第 10 回真田幸村杯剣道大会結果 (9 月 19 日)

於・上田市自然運動公園総合体育館

男子団体 第 3 位

女子団体 (上田千曲・上田混成 E) 第 3 位

■ 高校東信剣道大会 (新人戦) 結果 (10 月 15 ~ 16 日)

於・上田市自然運動公園総合体育館

男子団体 3 位

準決勝で佐久長聖に 2 : 3 (大将戦にて) 負

3 位決定戦 上田千曲に 4 : 1 勝

男子個人戦 山岸龍矢 1 位

決勝 佐久長聖 水沢に 2 : 0 (胴・面) 勝

## 「今」

平成二十八年

## 一年を終えて



上田高校剣道班顧問 若林 康彦

OB 会の諸先輩におかれましては日頃より上田高校剣道班へ、物心共々のご協力を頂きありがとうございます。心より感謝申し上げます。

さて、本年度の剣道班の主な戦績ですが、春のインターハイ予選、男子団体は東信大会 2 位、県大会ベスト 8。女子団体は東信大会 3 位、県大会ベスト 1 6。新人大会においては、男子団体は東信大会 3 位、県大会ベスト 8。男子個人戦は、1 年生の山岸龍矢君が、東信大会 1 位、県大会ベスト 8。このような結果でした。特に、山岸龍矢君に関しては今後更に上位の大会での活躍を期待しています。

現在班員数は男子 7 名、女子 2 名という状態です。女子に関しては個人戦に向けて頑張らせたいと思っております。男子においては、東信 1 位の山岸を中心に、精神力、体力、技術力の向上を計らせたいと思っております。

昨年の通信にも書きましたが、課題はいかに班員の数を増やすかということにあると思います。大勢の中で「切磋琢磨」させることが今後の競技力を高めることに繋がると考えております。

来年の 1 月に今年度最後の公式戦、「全国選抜大会長野県予選会」がありますが、しっかり準備、調整させ、より上の大会に出場出来るよう生徒と共に頑張りたいと思っております。



稽古風景・指導に訪れた春原会長と宮坂信之氏  
平成 28 年 10 月 26 日上田高校明倫館



平成 28 年 10 月 26 日上田高校明倫館にて  
(前列左から三人目) 春原和民会長 64 期・宮坂信之氏 64 期

# 剣道今昔

## ●撃剣部記事

○春期及秋期競技會 例によりて地久節及教育勅語記念日を以て之を行ひたり懇篤誠實なる小野田先生の教授部員の熱心鍛練の功歴々たり而して其進歩の比例は本年を以て最となすといふも敢て溢美にあらずと信ず庶幾ば部員諸士益奮勵する所あつて長へに我先進勇士の後繼者たるに耻するなからんとを期せよ

○對長野師範の試合 十月一日長師の勇士來る敵も中々さるものなれば勝負や如何にと片唾を呑んでぞ控へたるやがて試合は始まりぬ雷と轟く掛聲丁々發矢と切り出す太刀音虚を擣き元を批ち秘を盡して戦ふ様たやすくは勝負の程もわかれさりけるがあらはれ月桂冠は遂に我の有に歸しぬ

○松本の聯合運動會 十月十七日秋高く人勇むの秋信濃男子が技を試むべく松本中學に於て開かれぬ會するもの奮業、長師、長中、松中、飯中、

## 「昔」

明治三十六年

諏中、及び我校の七校也此名譽ある戦場に撰り出されし本部の勇士は小山茂、武田叔三、小山貞一、富山朔、稻玉信吾の五君何れも美々しく立働き三名の勝者を出したり

吾人は此晴場に於て我撰手が熱心なる小野田先生が厚き薫陶との功見えてスタイルの整然たる勝負に毫も未練を残さざる又充分禮を重じたる等の諸点に於て大に感謝する所あり而して又審判官としての先生が如何に決断に富めりしよ、先生の判決に些少の不公平なく一度唇を破り出でし其判決には遂に何人も否認する能はざりしよさすがは世に其人ありと知られたる先生の御徳恭讓なる然しなから英邁果斷なる、げに今の世に有難き大和武士一先生一の其面蔭には敵も味方も嘆せぬ者とはなかりき

# 剣道班・アーカイブス

当剣道班OB会では、明治～大正～昭和に至る貴重な写真を関係者のご協力を得て収集し、後世に残す為データ化した。それらの中から貴重な写真を紹介する。



過去も、そして現在も健在な古城の門  
上記は明治時代、伊藤長三先生が剣道教師



右は平成二十七年秋 古城の門

### 宮下杯優勝者の声

【男子優勝】一年百十七期 山岸龍夫

私は県大会がはじまる少し前ほどから、ほぼ毎日、練習して家に帰った後家の周りを走っていました。それは、遠征などで、体力の面や、相手との力勝負で押し負けていると感じたからです。練習の後で、とても疲れていたときもありましたが、小さな努力の積み重ねをしつかり続けようと私なりに頑張ってきたと思います。

大会当日では、努力の過程もあつたおかげかあまり緊張せずに臨めたと思います。試合では、自分の技、攻めを十分に活かして戦えました。でも、二週間くらいほど練習していなかったとはいえ、やはり三年生の先輩方は絶対に負けたくないと思っていたので、体力が減ってきてても、集中力を切らさずに戦うことができました。その結果、相手をよく見て、相手の動きを考えながら戦うことができたので、一本を取ることができ、勝利につながったのだと思います。

今回の優勝を自信にして、これからの試合や大会も、集中して、勝ちにこだわって取り組んでいきたいと思えます。

【女子優勝】二年百十六期古居佑紀乃

私は今回の宮下杯で、初めて大会で優勝することができました。現役生だけの試合でしたが、尊敬する先輩たち

に勝ち、優勝できてとても嬉しかったです。

この大会で、私はほとんど自分の得意技で勝負しました。得意技で勝つたのは良かったですが、これからは苦手な技もしつかりと練習し、公式戦でも使えるようにしなければいけない、とも思いました。若林先生や、班員に聞きながら、身に付けていきたいです。

宮下杯でもらったトロフィーは予想以上に大きくて驚きました。今は、部屋に飾ってあります。あのトロフィーを見ると、班活を頑張ろう、と思えます。しかし、先輩たちが引退された後、女子の班員は二人になつてしまいました。一年生が一人もいません。そのため、大会や練成会などは、混成チームで出ています。先輩たちがいた頃は、上田高校として出られていたため、今は寂しい状態です。

また、稽古は男子と一緒にやっています。力はつきませんが、体力や体格の差があるため辛い時も多いです。男子は一年生もいて、上田高校でチームが組んでいるので、羨ましいです。なかなかモチベーションが上がらない中で稽古をしています。来年はもっと勧誘をして、沢山新入生を入れたいです。そして、来年の夏の大会こそは、上田高校女子剣道班として、女子主将として出場したいです。

次の宮下杯では、新入生もきつといえるはずなので、優勝できるように頑張ります。

上田高校は、顧問に若林先生が、副

顧問に高柳先生と小林先生がいてくださいます。また、OBの先輩方も時々指導に来てくださいます。遠征や練成会にも行きます。強くなる機会は沢山あります。そのチャンスをしつかりとつかみ、自分の中に吸収して、夏の大会で、その力を最大限発揮できるように、日々の稽古を積み重ねていきたいです。

宮下杯のトロフィーには、尊敬するすばらしい先輩たちの名前が書かれています。その中に、自分の名前が入ったことを誇りに思いながら、これからも頑張ります。

### 現役生の声

【班長】三年百十五期 山崎大輝

先輩方から剣道班を受け継いで間もない頃は、自分達がこの班を引っ張っていかなければならないと思うと不安に苛まれました。

新体制となり、インターハイ出場を目標に掲げ、活動を始めましたが、稽古での物足りなさを感じ、先輩方の存在がどれほど大きなものであつたかを強く認識させられたスタートとなりました。

私たちは考えることを意識した質の高い稽古を目指して取り組んでいますが、県外遠征や大会で思うような結果が出せませんでした。

新人戦を終え、自分達の意識が十分な高さに達していないことがわかり、今までに増して互いに声を掛け合い、より深く考えるようになって稽古に対する姿勢が向上しました。

私達の代はチームとして勝つことが長い間課題としていました。各々が個人戦を行なっているような試合展開が続き、誰かが勝つてもその勝ちをチームの勝利に繋げることが出来ずに行きました。そのような課題も含め、若林先生のご指導の下、自分には、チームには何が足りないのか、どうすればそれらを解決できるのかを悩み抜き、稽古を重ねました。

三年にとつて最後の夏の県大会、結果は決勝トーナメント敗退という悔いの残る形となりました。しかし、試合

者、応援者を含め、チーム一丸となつて全力で試合に臨むことが出来たと思っています。

目標を達成することは叶いませんでしたが、顧問の先生方、OBの先輩方、並びに保護者の方々はじめ沢山の支えがあり、充実した班活動を行なうことが出来ました。今まで本当にありがとうございました。

【女子班長】百十五期 石田小桃

六月初旬、私たちの代の高校剣道が終わりました。私が一年の時も二年の時も先輩方が個人や団体、何かしらの形で一つ上の大会に進んでいて、六月中旬までは稽古に来てくださっていたので、自分たちがこんなに早く引退することになってしまつて、少しの違和感と後輩たちへの申し訳なさを感じました。それと同時に、上の大会へ進むことの厳しさと先輩方の偉大さを改めて実感しました。

思えば、一つ上の先輩からこの伝統ある上田高校剣道班を引き継いだ当初、男子とのコミュニケーションがとれなかったり、限りある稽古時間を有効活用することができなかったりと、上手くいかないことだらけで、このような調子で私に女子班長が務まるのだろうかと不安がありました。試合でも個人個人の力はあるのに繋げて勝つことができず、歯がゆい思いをしました。しかし、そんな状況を打破するための話し合いを重ね、顧問の先生方やOBの先輩方に指導を仰ぐことで、各々が自分の剣道を見つめ直し、全員で課題





9月19日第十回真田幸村杯剣道大会にて、(右)上田高校選手

に向かって稽古に励むことができた。  
 春を迎える頃には勝てる試合が多くなり、個人個人の力がまとまって団体戦らしい試合も増えてきて、最後の大会に向けて、とても良い雰囲気の中で稽古することができました。  
 県総体では、残念ながら思うような結果が残せませんでした。全員が最後まで力を出し切り、上田高校らしい試合ができたと思います。  
 この三年間、このような充実した環境で質の高い稽古ができたのは、顧問の先生方をはじめOBの先輩方の御指導のおかげです。本当にありがとうございました。また、私はこの代で剣道ができることができ、本当に楽しかったです。  
 最後になりましたが、上田高校剣道班の今後のますますの御健闘を応援しています。



女子団体(上田千曲・上田混成E)第三位



第十回真田幸村杯剣道大会(主催上小剣道連盟)男子団体第三位



9月19日第十回真田幸村杯剣道大会にて、(白)上田高校選手

### 会員の近況報告

第十回全日本学生剣道オープン大会(主催:全日本学生剣道連盟、場所:宮城県総合運動公園、平成二十七年十二月十九日~二十日)  
 女子式段以下の部において、山形大学一年(現二年、上田高校出身百十三期)正村薫さんが見事三位に輝いた  
 ※月刊「剣道日本」2016年3月号81頁に掲載、写真提供スキージャーナル株式会社(掲載許可済)



113期正村薫さん

若い大学生チームの明倫会が全勝。次に望みを繋いだが二回戦、強豪の更殖剣道連盟チームと当たり惜しくも敗退。その後も試合は熱戦が繰り返された。この大会は歴史が古く、OB男女も多数参加、あるいは運営に携わっている。

第64回 長野県剣道居合杖道雑刀大会

克己心

主催 (一財)長野県剣道連盟  
 協賛 長野県教育委員会 (公財)長野県体育協会  
 長野市 常盤毎日新聞社 長野県武道連盟協議会

期日 平成28年11月23日(祝)  
 会場 長野市真島総合ｽﾎﾟｰﾂﾌﾟﾗﾝﾞ (ホワイティング)

### 平成二十八年度会費納入者芳名録

- 第六十四回 長野県剣道居合杖道雑刀大会(主催:一般財団法人長野県剣道連盟)場所:長野市真島総合ｽﾎﾟｰﾂｱﾘｰﾅ(ホワイティング)  
 平成二十八年十一月二十三日(祝)  
 大学生OBでチームを組み、成年男子の部に「明倫会」チームが出場した。メンバーは、先鋒が白倉雄太君(上田染谷丘高校出身)、次鋒が滝澤牙毅君(百十二期)、中堅が矢ヶ崎日路君(百十一期)、副将が朝倉雄磨君(百十一期)、大将が春原光希君(百十二期)。一回戦は、長野県庁チームと対戦、県庁チームにも中沢道彦氏(八十二期)が出場、後輩チームと初戦を戦ったが、
- |         |        |          |
|---------|--------|----------|
| 柳澤千恵子   | 今井元夫   | 春原和民     |
| 石井信幸    | 宮沢伸彦   | 工藤泉      |
| 上平忠一    | 小川亮夫   | 羽田丈夫     |
| 佐藤陽文    | シミズミチオ | 矢嶋智弘     |
| 田中美枝子   | 山田恒昭   | 香山博      |
| 永井郁芳    | 末広真美子  | 丸茂京子     |
| 藤原清華    | 宮川正    | イシイヒデキ   |
| 宮坂昌之    | 上羽昌美   | 金森健志     |
| 飯塚芳幸    | 工藤武和   | シミズカノウ   |
| 池田直樹    | 清水和    | スノハラコウキ  |
| 飛田武昭    | 関美智子   | マツザワアキヒロ |
| 近藤敏朗    | 池田浩明   | ヤナセミキ    |
| ハヤシノリュキ | 正村聖美   | 山崎完爾     |
| 山浦光     | 松井敦    | 佐藤博      |
| 窪田通人    | 塩沢和佳   | 仁木邦彦     |
| 柳沢英子    | 柳沢秀俊   |          |
| 山浦一雄    | 羽田敏幸   |          |
| ユイコウキ   | 滝澤牙毅   |          |

### 連絡事項

- 一月二日OB会のお知らせ
- 日時平成29年一月二日
- 午後一時~若手OB対現役生試合終了後合同稽古会
- 会場は上田高校体育館
- 午後六時~懇親会 上田温泉「祥園」(五時半より受付) 会費3000円
- ※幹事(百十一期) 矢ヶ崎日路 080-3510-8904

OB会ホームページ <http://ueken-ob.boy.jp/> 会員制掲示板ID: ueda パスワード: 1111  
 メールマガジンを発行しました。当会からのご連絡を流しますので登録をお願いします。登録はwebから

- 来年度会費納入のお願い●  
 会費(三千元) 納入は六月の総会後一ヶ月以内、七月末までに左記の方法でお願い申し上げます。※ご寄付は随時受付けております
- (一) 郵便振替用紙での送金  
 郵便振替 口座記号番号 00510・6・50693
- 加入者名: 上田高校剣道班OB会
- (二) 銀行口座へのお振込み  
 八十二銀行 上田支店  
 口座番号: 1014425
- 名義: 上田高校剣道班OB会  
 ※卒業期とお名前の記入をお忘れなく

来年度のOB会総会は  
**6月24日(土) 予定**

○住所変更の方は幹事長まで  
 七十七期 山崎 完爾  
 〒386-0004  
 上田市殿城一三八八四  
 事務局 ueken\_ob1955@gmail.com